

学校施設の状況について

市内小中学校の教室等一覧

- ・建設時と現在の普通教室や特別教室の状況を比較すると、児童生徒数の減少に伴い、普通教室が減っている状況が見て取れます。
- ・空いた普通教室は、多くの学校で特別支援学級や多目的室等として活用されています。

学校の維持管理経費の長期見通しについて

現在の学校施設数を維持した場合の維持管理経費（※1）についての試算は以下のとおりです。「長門市学校施設長寿命化計画（令和2年3月）」より

- ・約50年で改築という従来の手法の場合、40年間で**272億円（6.8億円/年）**と算定されています。
- ・近年、従来型の改築中心による維持・更新から、改修等により施設の健全性を長く維持していくという「施設の長寿命化」が推奨されていますが、長寿命化の手法を取り入れた場合でも**249億円（6.2億円/年）**と算定されています。
- ・長寿命化型は改築が減ることから、従来型よりコスト削減可能とされていますが、本市の学校施設は早期に改修を行わなければならない老朽化した施設が数多くあるため、40年の期間のうち最初の10年に改修が集中することになり、現実的には実施が困難です。
- ・このため、改修時期を調整し費用の平準化を図る必要がありますが、平準化した場合でも、**5.7億円/年、総額227億円**もの費用がかかると算定されています。市の厳しい財政状況からすると、依然重い費用負担となっており、実際、費用面等から長寿命化改修には至っておらず、現在は、修繕が必要な箇所が発生した都度補修する対応により、学校施設の保全に努めています。

※1 令和2年3月の計画策定時の工事単価を元に算定されたものであり、当時と比べるとおよそ1.3倍程度工事単価が上がっていることに留意する必要があります。

市内小中学校の教室等一覧

■小学校

学校名	建築年	築年数	種別	建設 当時	現在	備考	エアコン
通小学校	H5	32	普通教室	8	1		1
			(その他)	—	7	プレイルーム、イングリッシュルーム、 スキルアップルーム、相談室、多目的教室×2	3
			特別支援教室	0	0		0
			音楽室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			図工室	1	1		0
			視聴覚室	1	1		1
			家庭科室	2	2		0
			計	15	15		5
仙崎小学校	S58	42	普通教室	15	7		7
			(その他)	—	9	特別支援教室×3（うち1つ間仕切り）、生活科室、多目的 教室、少人数教室×2、コンピューター室、外国語教室	6
			特別支援教室	1	0		0
			(その他)	—	1	児童クラブ	1
			図工室	1	1		0
			音楽室	1	1		0
			家庭科室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			ことばの教室	2	2		2
			計	23	24	※分割使用のため増	16
深川小学校	H23	14	普通教室	24	14		14
			(その他)	—	10	特別支援教室、萩総×3、児童クラブ、 通級教室、多目的教室×4	10
			特別支援教室	6	6		6
			(その他)	—	0		0
			図工室	1	1		1
			音楽室	2	2		0
			家庭科室	2	2		1
			図書室	1	1		0
			コンピュータ室	1	1		1
			理科室	2	2		1
			計	39	39		34
向陽小学校	S54	46	普通教室	6	4		4
			(その他)	—	2	生活科室、多目的教室	2
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			音楽室	1	1		0
			コンピュータ室	1	0		0
			コンピュータ準備室	1	0		0
			(その他)	—	2	特別支援学級×2（うち一部屋はコンピュータ準備室を使 用）	0
			図書室	1	1		0
			図工室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			家庭科室	2	2		0
			計	14	14		6

学校名	建築年	築年数	種別	建設 当時	現在	備考	エアコン
俵山小学校	H13	24	普通教室	6	3		3
			(その他)	—	3	特別支援学級×2、Tルーム	2
			特別支援教室	1	0		0
			(その他)	—	2	C S ルームと給食配膳室 ※分割使用	1
			理科室	1	1		0
			図書室	1	1		1
			音楽室	1	1		0
			図工室	1	1		0
			(その他)		1	図書室の半分をコンピュータ室として使用	1
			調理実習室	1	1		0
			計	12	14	※分割使用のため増	8
明倫小学校	S45	55	普通教室	16	6		6
			(その他)	—	9	生活科室、つながるーむ、郷土室×3、 地域交流室、児童クラブ×2、図書室（2部屋分）	3
			特別支援教室	2	2		2
			(その他)	—	0		0
			理科室	2	1		0
			(その他)	—	1	通級指導教室	0
			音楽室	1	1		0
			図書室	1	0		0
			(その他)	—	1	コンピュータ室	1
			家庭科室	2	1		0
			図工室	1	1		0
			計	25	23	※図書室2教室分使用のため減	12
浅田小学校	H3	34	普通教室	6	5		5
			(その他)	—	1	学習室	1
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			理科室	1	1		0
			コンピュータ室	1	0		0
			(その他)	—	2	特別支援学級、ことばの教室	1
			図工室	1	1		0
			図書室	1	1		1
			家庭科室	2	1		0
			(その他)	—	1	コミュニティルーム	0
			音楽室	1	1		0
日置小学校	H2	35	普通教室	12	6		6
			(その他)	—	7	特別支援学級×3（間仕切りを使用） 通教教室×2、児童クラブ、児童会室	3
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			音楽室	1	1		0
			視聴覚室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			コンピュータ室	0	0		1
			図工室	1	1		0
			家庭科室	2	2		0
			計	19	20	※教室分割のため増	10

学校名	建築年	築年数	種別	建設 当時	現在	備考	エアコン
神田小学校	H7	30	普通教室	6	2		2
			(その他)	—	4	多目的教室、外国語教室、児童会室、学習ルーム	1
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			図書室	1	1		0
			家庭科調理室	2	2		0
			図工室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			音楽室	1	1		0
			コンピュータ室	1	1		1
			視聴覚室	1	1		0
			計	14	14		4
油谷小学校	H26	11	普通教室	6	6		6
			(その他)	—	0		0
			特別支援教室	4	3		3
			(その他)	—	1	通級教室	0
			音楽室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			図工室	1	1		0
			家庭科・調理室	1	1		0
			コンピュータ室	1	1		1
			理科室	1	1		0
			計	16	16		10
向津具小学校	S63	37	普通教室	3	3		3
			(その他)	—	0		0
			特別支援教室	1	0		0
			(その他)	—	1	図工準備室	1
			音楽室	1	1		0
			コンピュータ室	1	1		1
			図書室	1	1		0
			図工室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			家庭科室	1	1		0
			計	10	10		5

■中学校

学校名	建築年	築年数	種別	建設 当時	現在	備考	エアコン
仙崎中学校	S44	56	普通教室	14	6		6
			(その他)	—	7	特別支援学級×2、図書室、保健室、教材室、相談室 生徒会室（2部屋分使用）、更衣室 ※教材室と相談室は分割使用	2
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			美術室	1	1		0
			家庭	2	2		0
			図書室	1	0		0
			(その他)	—	1	会議室	0
			理科室	2	2		0
			音楽室	1	1		0
			技術室	2	1	建替え？	0
			計	23	21	※2部屋→1部屋等による減	8
深川中学校	S50	50	普通教室	15	9		9
			(その他)	—	7	特別支援教室×3・通級教室・多目的教室・勸学室×2 ※1階特別支援教室と通級教室は間仕切りで分割使用	4
			特別支援教室	0	0		0
			(その他)	—	0		0
			技術室	2	2		0
			美術室	1	1		0
			家庭	2	2		0
			理科室	2	2		0
			音楽室	1	1		0
			視聴覚室	1	0		0
			(その他)	—	1	勸学室	1
			図書室	1	1		0
			計	25	26	※間仕切り対応による部屋数増	14
三隅中学校	S58	42	普通教室	9	3		3
			(その他)	—	6	サブ教室×3・特別支援教室・学習室・生徒会室	3
			特別支援教室	1	1	※間仕切りで分割使用	1
			(その他)	—	1	相談室※間仕切りで分割使用	0
			図書室	1	1		1
			視聴覚室	1	0		0
			(その他)	—	1	多目的教室	0
			理科室	2	2		1
			家庭科室	2	2		0
			音楽室	1	1		1
			美術室	1	1		0
			計	18	19	※間仕切り対応による部屋数増	10

学校名	建築年	築年数	種別	建設 当時	現在	備考	エアコン
日置中学校	S63	37	普通教室	6	3		3
			(その他)	—	4	特別支援学級×2・通級教室・多目的教室 ※通級と多目的は間仕切りで分割使用	2
			特別支援教室	1	0		0
			(その他)	—	2	学習室・相談室 ※間仕切りで分割使用	0
			音楽室	1	1		0
			コンピュータ室	1	0		0
			(その他)	—	1	多目的教室	0
			技術室	1	1		0
			理科室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			美術室	1	1		0
			家庭科室	1	1		0
			調理室	1	1		0
			計	15	17	※間仕切り対応による部屋数増	5
菱海中学校	S54	46	普通教室	7	3		3
			(その他)	—	4	特別支援学級・多目的教室×3	1
			特別支援教室	1	1		1
			(その他)	—	0		0
			音楽室	1	1		0
			図書室	1	1		0
			家庭	1	1		0
			視聴覚室	1	1		1
			理科室	1	1		0
			調理室	1	1		0
			技術室	2	2		0
			美術室	1	1		0
			計	17	17		6

出典について

- 教室数：「建設当時」数は建築図面をカウント、「現在」数は公立施設台帳（平面図）によりカウント
- 建築年：公立施設台帳による建築年度（管理棟・教室棟によって、建築年が異なる場合は早い方を採用）
- 築年数：令和7年度末時点で算定

学校の維持管理経費の長期見通しについて

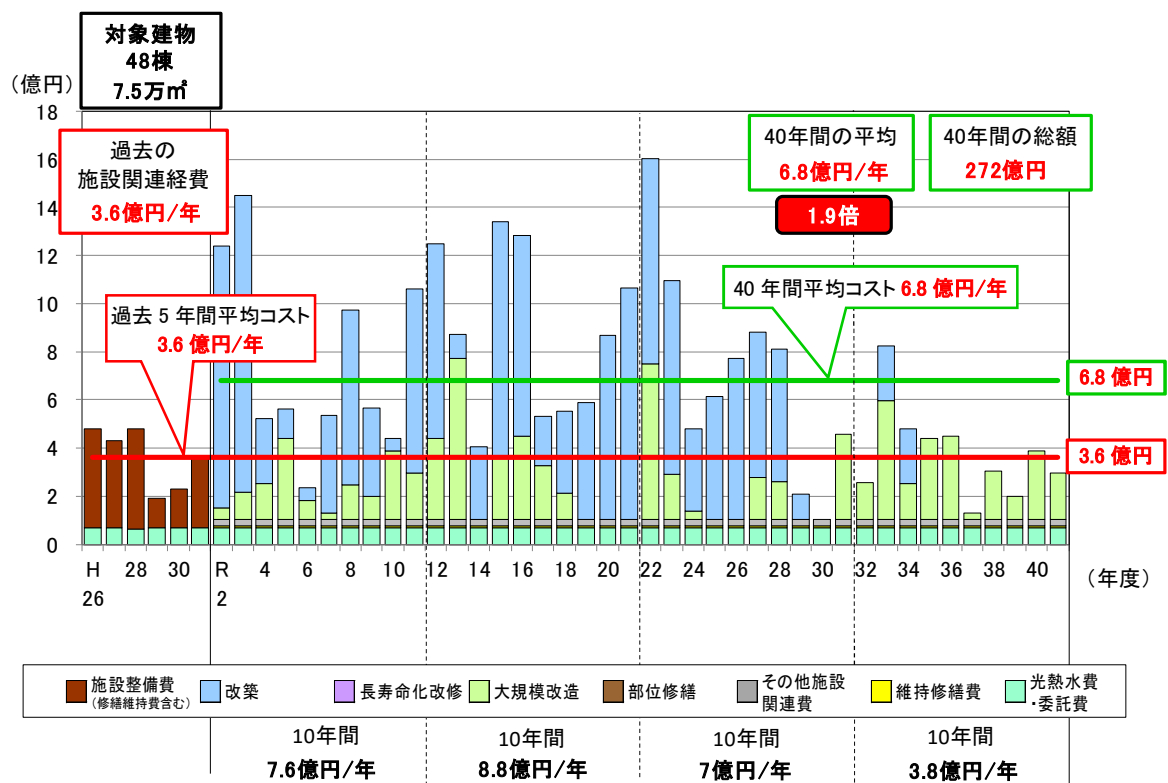
長門市学校施設長寿命化計画（令和2年3月）より抜粋

⑤ 今後の維持・更新コスト（従来型）

今後40年間の維持・更新コストは、整備後50年で改築する従来型の整備方法を採用した場合、272億円（6.8億円／年）の投資規模となります。これは直近5年間平均の施設関連経費3.6億円／年の1.9倍程度のコストとなっています。

本市の対象施設建物の多くが今後、築後50年を迎えることから、近い将来には、改築建物が集中し、令和2年度からの10年間に至っては一年につき平均7.6億円の投資が必要となり、従来の改築中心の整備を実施することは財政面からも厳しい状況にあり、対応策を検討する必要があります。

図10 今後の維持・更新コスト（従来型）



※ 令和元（2019）年度を基準年としている

※ 「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」付属 Excel ソフト（文部科学省）による

表9 今後の維持・更新コスト（従来型）の算定条件

費用区分	費用内容	周期	単価
過去の施設関連経費	○平成26～30年度の施設整備・修繕維持にかかった総額の年平均額 (施設整備費 平均259,830千円/年) (その他施設費 平均 26,429千円/年) (維持修繕費 平均 7,960千円/年) (光熱水費 平均 67,504千円/年)	—	3.6億円/年
改築	○施設の改築にかかる費用 本市が最近行った建物改築または新築による実勢単価（市採用単価）	50年（棟）	校舎：24.8万円/㎡ 体育館：28.4万円/㎡ 給食C：38.4万円/㎡
大規模改造	○施設の大規模改造にかかる費用 改築単価の25%	20年（棟） 40年（棟）	改築費×25%
その他施設整備費	○その他施設整備にかかる費用 平成26～30年度のその他施設整備にかかった費用	毎年	2,640万円
維持修繕費	○維持修繕にかかる費用 平成26～30年度の維持修繕にかかった費用	毎年	800万円
光熱水費・委託費	○光熱費、上下水道料金、委託費にかかる費用 平成26～30年度の光熱水費	毎年	6,750万円

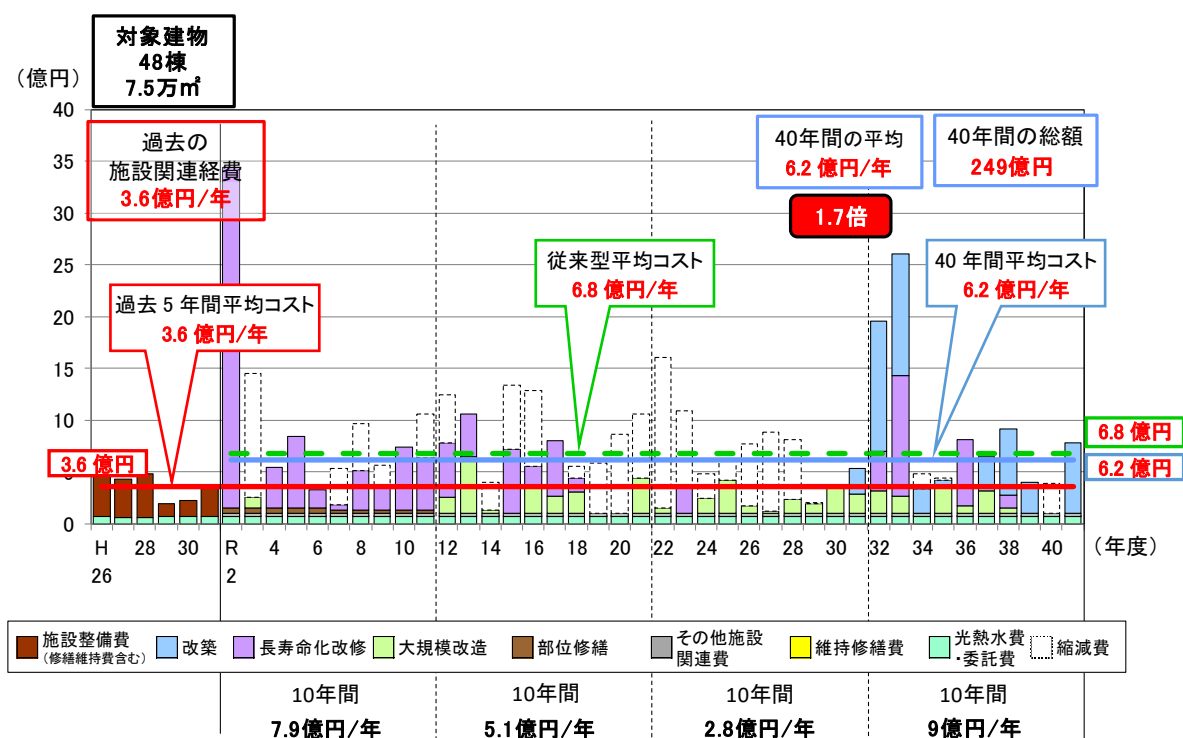
② 今後の維持・更新コスト（長寿命型）

従来型の改築中心による維持・更新から改修等により施設の健全性を長く維持していく施設の長寿命化に切り替えていくため、劣化の改善を図る“部位修繕”及び、施設の築年数からの改修周期に基づく修繕・改修を行う長寿命化型によるコストの算定を行います。

長寿命化により建物を80年間使用した場合、今後40年間のコストは249億円（6.2億円／年）となり、これは従来型の改築中心の場合の6.8億円／年より約9%の減少となります。

一方、当初10年間のコストは7.9億円／年となり、既に改修時期を超えている建物の長寿命化改修が集中することから、40年の平均値より約3割増加します。特に、令和2（2020）年度では33億円規模となり、現実的には実施が困難です。また、長期的に見ても過去の施設関連経費3.6億円／年の1.7倍の6.2億円／年規模の費用が必要となり、財政面での課題が残ります。

図13 今後の維持・更新コスト（長寿命型—単純シミュレーション）



※ 令和元（2019）年度を基準年としている

※ 「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」付属 Excel ソフト（文部科学省）による

② 長期コスト見通しにおける課題

年度別の事業費の平準化により、年度間での変動幅は低くなるものの、最初の 10 年間の年間平均の維持・更新コストが約 6.1 億円となり、本市の財政状況からは依然として重い負担となっています。また、本計画の後半の令和 30（2050）年代には、現在の長寿命化対象施設の多くが改築の時期を迎え、事業費が膨らむことが想定されます。

しかしながら、安全・安心で質の高い教育環境を維持・管理していくために必要となる長寿命化改修等を設定周期である建設後 40 年程度で実施をしておかないと、大規模修繕と連動した改修による耐用年数を 80 年とした運用ができなくなるため、今後 10～15 年間の施設整備費を確保しておく必要があります。

そのため、市の財政状況を鑑み、本市全体の公共施設の総合管理と調整を図りながら、必要な財源確保に取り組んでいくことが必要となります。